

ちょうふ環境にゆ〜す

未来へつなぐ調布の環境

発行：調布市環境部環境政策課

連絡先：電話 042-481-7086・7 (直通) FAX 042-481-7550

email kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

※市ホームページでも、環境情報を提供しています(トップページ「まちづくり・環境」からご覧ください)。



2022年1月
第45号

刊行物登録番号
2021-162

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



深大寺・佐須地域の里山を活用した環境学習

活動報告

市の北部に位置する深大寺・佐須地域は、豊かな湧水が流れる用水路に沿って、都市農地や屋敷林等が広がる、武蔵野の面影を残す里山風景を形成している地域です。市では、こうした地域の豊かな環境を、調布の財産として次世代に引き継いでいくため、里山の風景が残る地域の環境を保全・活用する取組を進めています。

令和2年7月に深大寺・佐須地域は、都市の貴重な農地を保全し農のある風景を維持していくための、東京都の「農の風景育成地区」に指定されました。この取組の一環として、この地域で市が公有化した土地を、里山や農に触れ合

える体験型の環境教育の場として活用しています。令和3年9月には、柏野小学校の5年生児童が稲刈り・さつまいも掘りの体験を実施しました。収穫したお米は食育の取組の一環として学校給食等での活用を予定しています。

なお、本取組は昨年度から実施しており、昨年度子どもたちが収穫したお米については、令和3年5月に学校給食で提供したほか、同年6月にはフードバンク調布へ寄贈しました。そのほか、収穫したお米や野菜については、市内の子ども食堂に提供する予定です。



令和3年9月14日の子どもたちの稲刈り・さつまいも掘り体験の様子

CHOFU プラスチック・スマートアクションの取組

活動報告

調布市では、「CHOFU プラスチック・スマートアクション」を立ち上げ、プラスチックごみの減量やプラスチックごみの海洋流出防止に繋がる取組を推進しています。

令和3年10月23日(土)に「海ごみゼロウィーク～海ごみ問題について学ぼう～」を開催しました。当初は環境省・日本財団が共同で開催する「秋の海ごみゼロウィーク」期間中の9月に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となりました。

海ごみ問題について学習した後、多摩川自然情報館

周辺の多摩川河川敷でゴミ拾いを行い、海に流出するごみの削減に努めました。参加者からは、「思っていたよりごみが多くて驚いた」と感想をいただきました。



CHOFU プラスチック・スマートアクションのロゴ



講義の様子



講義の資料



多摩川でゴミ拾い



当日収集したごみ

多摩川クリーン作戦

活動報告

多摩川を「きれいな、親しまれる川」にすることを目的として、市民参加による美化活動を実施しています。自治会や商店会、事業所の方や個人参加の方など、皆様にご協力をいただきました。

1. 春の多摩川クリーン作戦

令和3年4月11日(日)午前8時から9時まで実施。
906人の多くの皆さまが参加されました。

(回収ごみの内訳)

可燃 270kg 不燃 200kg 粗大ごみ 200kg
ビン 15本 缶 325本 ペットボトル 120本

2. 秋の多摩川クリーン作戦

令和3年11月14日(日)午前8時から9時まで実施。
1,009人の多くの皆さまが参加されました。

(回収ごみの内訳)

可燃 260kg 不燃 200kg 粗大ごみ 200kg
ビン 36本 缶 284本 ペットボトル 932本



秋の多摩川クリーン作戦の様子

喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン

活動報告

令和3年11月15日(月)から19日(金)までの5日間にわたり、市内京王線9駅の各駅前にて喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンでは、調布市都市美化の推進に関する条例及び調布市受動喫煙防止条例に基づき、喫煙マナーの向上や受動喫煙防止、歩きたばこやたばこの

ポイ捨て禁止に関するメッセージを放送しながら、市民・事業者の方々と市内各駅周辺の清掃活動を行っています。

本年も自治会や商店会、事業者の方など合計で34団体、186人と多くの方にご参加いただきました。



喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーンの様子



路上等喫煙禁止区域の看板

ゼロエミッションビークル(ZEV)の導入推進

お知らせ

調布市では、脱炭素化に向け、二酸化炭素等の排出ガスを出さない地球にやさしい電気自動車(EV)などのゼロエミッションビークル(ZEV)の導入を進めています。

この度、脱炭素化に向けたまちづくりに寄与することを目的に、一般社団法人武蔵府中法人会から電気自動車が寄贈されました。

いただいた車両は、生活環境に係る日常業務などで活用しています。



贈呈の様子

このほか、市役所では現在3台のZEVを導入しています。今後も、ZEVの導入を推進していきます。



寄贈されたZEV

EV充電スタンド

雑木林ボランティア講座

活動報告

雑木林ボランティア講座は、調布に今も残る里山の風景や雑木林を、市民と市が協働で保全していくためのボランティア養成講座です。雑木林の維持管理に役立つ知識や技能を習得します。

「雑木林の生態系（植物編）」

令和3年10月16日（土）に開催した、今年度第3回目となる講座では「雑木林はどう育て維持されていたか」について学びました。雑木林とは、自然にできた林ではなく、燃料としての薪や、肥料としての落ち葉を使うなど、人の手が入った林です。講師から、皆さんの力を借りて維持保全していきたいとの話がありました。



樹木調査をする様子

その後、入間樹林

地で樹林の高さの目測方法などについて実習を行い、講師の作成した調査票を基に、受講者全員で樹林の植物構成の調査を行いました。

「雑木林の生態系（生き物・むし編）」

令和3年11月13日（土）に開催した第4回講座では「雑木林の生態系と生き物」について学びました。

講義では食物連鎖の話がありました。その後、深大寺自然広場内で、実際にどんな生き物（昆虫類）が見つかるか、みんなで観察会を行いました。



生き物を観察する様子

環境モニター

活動報告

環境モニターは、市民と市が協働で市内の自然環境を観察し、自然環境の保全に活用していこうというグループ活動です。植物観察を中心に、調布の地形、鳥、昆虫などの自然観察などを行っています。

「ミミズの不思議」

令和3年10月30日（土）に駿河台大学経済経営学部教授の伊藤雅道先生を講師に迎え、染地ふれあいの家で開催した第1回“ミミズの不思議”の様子を報告します。

ミミズが生息する土は良い土と言われていますが、どうしてなのでしょう。ミミズが土をかき混ぜることで土壌耕転作用が働き、土壌微生物の活動を活発化します。また、サラサラの土をミミズが食べて糞をすることで、土は以前より大きな土の粒（団粒）になります。団粒は植物にとって根が呼吸しやすかつ、水はけが良いなどプラスに作用するのです。さらに、窒素の無機化が促進されることで植物の成長に貢献しま

す。こうしたことから、ミミズは生活する周囲の環境を効果的に変化させる役割があり「生態系改変者」と呼ばれているそうです。

講義で習ったことを踏まえ、講師がミミズを解剖し、体内の様子（外部形態や内部形態）を観察しました。参加者からは、「高性能な顕微鏡で見たのは初めて」「心臓がはっきり見える」と驚きの感想をたくさんいただきました。



講義の様子

こどもエコクラブ

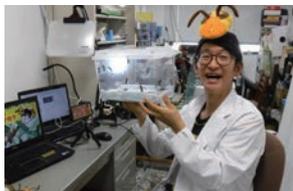
活動報告

調布こどもエコクラブは、河川や緑地などでの自然体験を通じて環境を学ぶ、子どもたちの環境クラブです。

「みんなで知ろうスズメバチの秘密」

令和3年10月2日（土）に、「みんなで知ろうスズメバチの秘密」をオンラインで開催しました。

講師から、ハチにはたくさんの種類がいること、毒針があるのはメスのみで、オスは刺さないことなどの説明がありました。また、スズメバチの巣を見つけたときの危険な動作（巣にイタズラをしたり、手や頭を振ったりしてはいけない）についても学ぶことができました。



講師：スズメバチ芸人 丸沢丸先生

「畑で収穫体験」

令和3年11月23日（火、祝日）に、柏野小学校北側の公有地で収穫体験を行いました。

サトイモやサツマイモなどの掘り方を、講師に教えてもらいながら、親子で協力してたくさん収穫しました。講師からは収穫した野菜のおいしい食べ方などの説明もあり、楽しい体験となりました。



収穫体験の様子

みんなでいっしょに自然の電気(みい電)キャンペーン

お知らせ

太陽光パネルが設置できない家庭でも、電力契約を切り替えることで、環境に優しい自然の電気を利用できます。多くの方が参加するほど料金がお得になります。参加登録後に届く見積りをもとに切り替えができますので、ぜひご参加ください。

参加登録期間/令和4年1月31日(月)まで
 対象/首都圏在住の家庭, 商店, 小規模オフィス(従量電灯 B, C)
 参加登録費/無料
 申込み/「みんなでいっしょに自然の電気」キャンペーンホームページ(右のQRコードからアクセス可)から
 問い合わせ/キャンペーン事務局 0120-267-100
 (携帯電話の方は 0570-058-100)
 ※受付時間/午前10時~午後6時(土日祝日を除く)



「みんなでいっしょに自然の電気」キャンペーンホームページへ↑

冬の省エネ「WARM BIZ (ウォームビズ)」に取り組もう

お知らせ

冬は、暖房の使用により、電気の使用量が最も多くなる季節です。経済産業省では、令和3年度の冬季の電力需給見通しが過去10年間で最も厳しくなると想定しており、この冬の電力使用を抑えるよう呼びかけています。ウォームビズの実践などにより、電力使用の抑制にご協力をお願いします。

～「ウォームビズ」とは～

過度な暖房に頼らず、冬を快適に過ごすライフスタイルのことです。「衣食住の工夫」をすることで、無駄を省いて快適に、暖房エネルギーの抑制を図ることができます。

ウォームビズの詳細はこちら⇒



～ WARM BIZ が推進する衣食住の具体的な取組～

食 食べ物の工夫を心掛けよう

鍋や旬の食材で
ぽっかぽか!

衣 衣服の工夫を心掛けよう

ひざ掛けやストールの活用を!

住 住まいの工夫を心掛けよう

窓やドアからの冷気をシャットアウト!

グリーンカーテン

活動報告

緑の保全・創出による地球温暖化対策の一環として、公共施設の壁面緑化を推進しています。今年度は、公共施設でゴーヤによる緑のカーテンを実施しました。

熱は窓から約7割強、壁面から約1割弱入るため、夏場は室内温度が上昇し、冷房負荷が大きくなります。これを抑制するために、窓や壁面をゴーヤなどの緑で覆う緑のカーテンを設置することで、冷房負荷の低減によ

る地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の防止などの効果を期待することができます。

併せて、収穫したゴーヤを味わう楽しみもあります。なお、ゴーヤの場合、種まきや苗の植付けは4月から5月が適しています。今年の夏は、緑のカーテンで楽しく地球温暖化対策に取り組んでみませんか。



第五保育園



図書館 若葉分館



西部児童館



北部公民館